

女性の視点を活かした地域農業の活性化

県南農林事務所経営・普及部門（土浦地域農業改良普及センター）では、女性農業者を地域農業の重要な担い手と位置付け、農業経営や地域農業振興に積極的に参画できる女性農業者の育成を進めています。特に、食農教育活動や加工品開発など女性の視点を活かした活動を支援しており、様々な場面において、女性農業者が活躍する機会が増えてきています。

■ 恋瀬小学校で食農教育活動 ■

普及センターでは、土浦地域女性農業士会が平成20年度から石岡市恋瀬小学校の5・6年生を対象として行っている「農業ふれあい体験」の開催を支援しています。大豆の播種から味噌作りまでを行うこの活動は、子供たちが食と農が密接に関わっていることを知る大切な機会となっています。



初めての味噌仕込み



アイデア料理がたくさん並ぶ

■ 地産地消の仕組み作り ■

土浦地域農村女性ネットワークでは、平成21年度から、「地場産野菜を食べよう交流会」を開催し、学校給食の栄養士等を招き、毎回アイデア豊富な地場産野菜料理のメニューを提案しています。普及センターは、メニューの考案にあたって生産者ならではの提案ができるよう指導・支援しています。また、普及センターが主催する農村女性大学では、米粉加工講座を実施し地元産米粉を利用した新たな加工品づくりを推進しました。今後もより商品性の高い魅力的な加工品ができるよう支援していきます。

■ 梨づくりを学ぶ女性グループ誕生 ■

平成24年1月、農村女性大学ナシコースの修了生が栽培技術の習得と経営管理能力の向上を目的に、「梨ふれっしゅ会（りふれっしゅかい）」（会員14名）を設立しました。

技術力や経験年数に差はありますが、優良事例研修会や現地検討会等をとおして、知識や技術の習得に積極的に取り組み、お互いに切磋琢磨しながら、レベルアップを図っています。



埼玉県久喜市で行った優良事例研修会